



「中耳炎の可能性がある」とだけ診断された君

だけど、獣医から帰ってきて数時間後には耳から大量の出血

平衡感覚をなくして立ち上がれなくなった。

水も飲まずに、ただ痛みに耐える君を見かねて

立ち上がれない君を隣に寝かせて

一晩中、痛みを訴えて泣き続ける君を宥めていた。

小鳥の声が聞こえる頃には、泣き止めば呼吸が止まって

鼓動が微弱になっていく……………

君は、昨日まで跳ね回っていたじゃないか。

君には大事な双子のきょうだいがいるじゃないか。

お腹の中から一緒に過ごして11年と5ヶ月

君は一人で逝ってしまうつもりなのかと囁いた。

何度も、何度も、泣き叫びながら君は帰って来て

そして苦しんでいた……………

誰よりも強さに憧れて

誰よりも強さを持ってないと知り尽くしていた君

アメリカン・カールという数少ない種類の父猫と

アビシニアンの母猫を持つ君たちは

小さな頃から綺麗な姿が自慢だった。

その綺麗な姿のまま

痩せる事も、衰えさえも隠したまま

君の呼吸は止まってしまった。

その急な旅立ちは今も信じられないままで……

それでも、君を思い出すために白い夕顔の苗を植えた。

夕闇の中、君の花が咲く日を待っている。

君の死を報せないまま

君を待ち続ける彼女と共に待っている

ラピスをおいて旅立ったラズリへ

君の死因は解らなくてもいい。

解っても帰って来る訳じゃないんだから。

もう、痛みもなく、静かに眠ってくれたらと願う。

今朝まで腕の中に居た

<http://p.booklog.jp/book/50236>

著者：猫屋雑猫

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/nekoyazathuneko/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/50236>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/50236>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.